

O.S.P



{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

VOL.20
October

無料

ご自由にお取りください

O.S.Pプロスタッフが
ホームレイクを徹底紙上ガイド

The Field Guide

～金井俊介@神奈川県・津久井湖～



Keep it on the down low!!

—並木敏成が語る あのルアーの真実—
～これからの季節に欠かせない
ディーブクランク～



O.S.Pプロスタッフがシーズンルアーをもとに
おすすめのルアーをご紹介します!

O.S.P
動画

… ▽ …
随時
更新!!

折金一樹が釣れる秘密を暴露します!

オリキンハイマクール



Pro Staff's RECOMMEND

相模湖 / 寺沢庸二

並木敏成 & O.S.Pの
最新情報はこちら。

並木敏成 ↓



O.S.P ↓



TOPICS

O.S.P
バスフィッシング
マスタークラス
今年も開催!!

詳しくは並木サイトおよび
O.S.Pサイトを
チェック!

Journal

折金高 Orikin High School

オリキンハイスクール

ここに開校した、オリキンハイスクール。本企画ではオリキンこと折金一樹が実践している、O.S.Pルアーの使い方をみなさんにお教えします。まずはそのルアーの特徴を知り、それからどこで、どういったときに、どんな使い方をすればバスが釣れるのかをオリキンから学びます。第二講はこの春、リリースされたオリキン監修の第二弾、オーバーリアル63ウェイクについて!!

1 限目 オーバーリアル63ウェイクを知る。

自身の「必要」をカタチにした見て、使って、釣って楽しいトップウォーター

オーバーリアル63ウェイクを作ろうと思ったきっかけは、ボクが「必要」と感じたことがはじまりです。リップ付きのトップウォーターで、まずはサイズにこだわりました。63mmという全長で細身のボディは、バスがこのサイズのベイトフィッシュを日常的に追っていることに着目。ノーシンカーリグや、これよりも大きなトップウォーターでは食わせられない。その理由のひとつはサイズが合っていないからだと思います。その観点から63mmというサイズに設定しました。またワームと違ってトリプルフックを背負っている



Length:63mm / Weight:2.6g / Hook:リュウギギビアストレブルダガー#10 / Price:1,900円(税抜)

ので、フッキングもいい。甘噛みで食わせ切ることができなくて、苦汁をなめた人も多いのでは? そんなじれったさを解消することにも成功しました。また、ジョイントボディと特殊繊維の毛も、こだわった点です。ウェイクベイト特有の引き波を立ててバスを寄せ、毛のアピールで確実に食わせる。これも、オーバーリアル63ウェイクの開発でこだわったギミックのひとつです。

2 限目 オーバーリアル63ウェイクが効く時季。

水面でこのサイズのベイトフィッシュを追っているシーズンは独壇場と言える!

次にオーバーリアル63ウェイクの出番となる時季についてですが、基本的には3月から11月まで。バスが水面でこのサイズのベイトフィッシュを追っているときや、エサを追わずとも水面近くにバスが浮いているとき。例えば春であればワカサギパターン。産卵を終えたワカサギが瀕死になって水面に漂っていますよね。それをバスが食っているとき。でも、なかなかセレクトティブで、食わせ切れることは困難な場合が多い。そこでオーバーリアル63ウェイクを使って、トウイチチなどの小技を効かせながら、ときにはデッドスティッキング(使い方についてはこのあと、詳しく解説します)で食わせられます。とにかく、長いシーズン、使うことができるルアーですので、常にタックルボックスに忍ばせておきましょう。



3 限目 まずはただ巻きで使ってみよう。

ロッドティップの高さを調整しながら泳ぐレンジをコントロールすることも重要

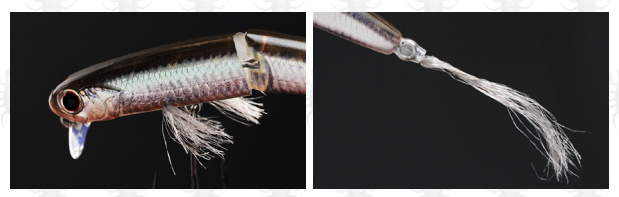
オーバーリアル63ウェイクの使い方として、まずマスターしてほしいのがただ巻きです。自分の目で「これぐらいのリールスピードではどのように泳ぐのか」を確認し、それを目安にしてください。基本的にはミディアムリトリブからスローリトリブまで。実際、この範囲のスピードで使うことを前提に設計しています。注意したいのはルアーが泳ぐ層について。ロッドの高さでそのレンジをコントロールすることができます。例えばロッドティップを高い位置で保持すると、水面ギリギリの層で引き波を立てながら通してることができます。これを低くすると、もちろんルアーが泳ぐレンジも下がります。水面直下で引き波が出るか出ないかぐらいの線を通してることが可能になります。これらはフィールドの状況とバスの反応を見ながら、こまめに調整していくと釣果につながるでしょう。



4 限目 小技を利かせてより食わせる。

ただ巻きだけでは食わせ切れないうきに小技を利かせてあのバスを振り向かせる

例えばサカナのレンジが深いとき、広範囲に散っているときなどは、トウイチチを加えて見つけてもらう時間をとるのも有効です。これでバスに見つけさせて、ルアーを追ってきたら、そのまま巻き続けるのもよし、ときには止めるのも効果的です。実はオーバーリアル63ウェイクはデッドスティッキング、要は水面で何もせずに放置するのも有効なのです。特殊繊維がわずかな水流でなびいて艶めかしさを見せます。さらにジョイントボディも風や水流で動き、これが見に来たバスへのバイトのトリガーになることも少なくありません。63mmというサイズ感や艶めかしい動きなど、リアルさを用いて食わせることができるのも、オーバーリアル63ウェイクのメリットと言えますね。



ジョイントボディやヒレを模した特殊繊維の毛など、バスを誘うためのギミックを随所に盛り込んでいる。すべては「究極のリアル」を求めた、オリキンのこだわりである

5 限目 オーバーリアル63ウェイクのタックル。

投げやすさを重視したULアクションレンジは6フィート前後が基準

次にタックルについてですが、スピニングタックルが前提。このルアーは投げやすさを追求したわけではないので、ご自身がキャストしやすいものを選んでもらうといいでしょう。ボクの場合、ショートキャストであれば6フィート前半、ロングキャストは6フィート後半のULが選択基準になります。レギュラーターパーであれば、フッキングストロークを大きくとれるのでしっかり掛けられます。ラインはこちらもショートキャストならフロロ、ロングキャストならPE+フロロのリーダーがベスト。参考までにボクが使っているタックルをご紹介します。ロッド:ブラックレーベルバーサタイル681ULFS / ライン:PEパフォーマンス0.3~0.5号orブレイブZフィネス3~4lb / リーダー:ブレイブZフィネス4lb。



特別講座 1 オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

見切られそうになったら…

それまでの動きとは異なる誘いでバスの興味をもう一度惹く

バスが追ってきたり、デッドスティッキングを見ているものの、見切ってしまうときに、果たしてどうするか。大事なことは「それまでの動きとは異なる誘いをかける」ということ。例えば止めていたのなら、Uターンしようとしたときに動かしてみる。追ってきたバスが見切ってしまうなら、あえて動きを止めてみる。つまりそれまでの動きとは異なる動きを見せて、再度、バスの興味を惹くのだ。

特別講座 2 オリキンが密かに気をつけている重要事項をここで学ぶ!!

プラグの入門に最適

食わせに長けるトップウォータースレたバスでも食わせやすい!

小さめで食わせに長けるトップウォーターなので、まずはプラグの入門編として使ってもらいたい。プレッシャーが年々高まる中で、バスも賢くなってきている。食わせるのが難しく、食うタイミングが一瞬ということも少なくない。だがオーバーリアル63ウェイクは食わせやすく、トップウォーターなので食う瞬間が見える。「バスの反応も目視できるので、ドキドキしますよ。プラグが苦手な人は、その意識を克服するのにもう一つついでだと思います。ぜひ、試してみてください!!」

シャローパターン用



O.S.Pジグ05タグガー+ドライブシャッドシュリンプ
3インチor HPミノー3.1インチ

パワーフィネスでカバー撃ち。レンジに合わせて2.7~4gを使い分けます

ハイビッチャーマックス

食わせが効きづらいときは、ターンオーバーに強いフラッシングで決まり。10gと14gをレンジに合わせて使い分けます



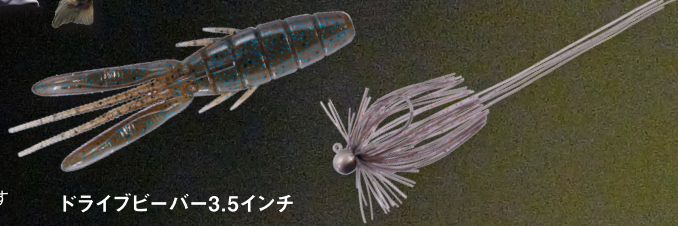
カレントが効いているシャローか
魚探頼みのワカサギパターンを追え!!

ドライブビーバー3.5インチ

リーダーレスダウンショットやフリーリグで、リアクションと食わせを両立。バスラフォールとシンカーがボトムに着底してからのステイやフォールの緩急が、効果バツゲン!

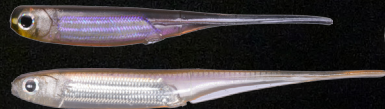
O.S.Pジグ04シンクロ

1.8~5gをレンジに合わせてボトムの沈み物に絡ませて使用します



ビッグフィッシュパターン用

ワカサギパターン用



マイラーミノー2.5インチ&3.5インチ

表層~表層直下をピクピクで使用。ワカサギのレンジが浅いときはこれ。中層ではジグヘッドの0.9~1.3gをレンジに合わせて使い分け、ミッドで食わせず。さらにミドルからディープにベイトフィッシュがいるときは1.8~5gのダウンショット。魚探で沈みモノやバスに追われているようなベイトフィッシュの群れの映像に向かってシューティングします。リーダーの長さを調整して、バスの目線に合わせることを意識しましょう

HPシャッドテール2.5インチ

相模湖、津久井湖での圧倒的釣果No.1ベイトです!! マイラーミノーやHPミノー3.1インチをローテーションし、微波動、ステイ、ロールなど、その日の当たりアクションを探し出しましょう。HPシャッドテールはズル引きおよびリフト&フォールも得意とするところ

ドライブシャッド6インチ

ワカサギを狙いフィードするのはバスだけではなく雑魚も同様。ビッグフィッシュはその雑魚を狙うケースも少なくありません。バイトは大きく減りますが、やり切ってビッグフィッシュ一本を狙う釣りも、出ればシビれます!! ドライブシャッド6インチはネイルシンカーの1.8~3.5gを入れて、エサのレンジに合わせてスイミングで使用します。1.8~10gのリーダーレスダウンショットでもOK

ブリッツMAX DR

レンジに合わせてキャストやドラッキング、スーパーディープを狙うならリップに板オモリを貼りシンキングチューンを施して使用します



オーバーライド

全レンジに対応する万能さで多用するのがこれ。素早くサーチして、さらに煮詰めたアプローチに移行することで、より釣果を上げることが出来ます。ウエイトは1/8~3/8オンスを状況に合わせてチョイスしています

HPミノー3.1インチ

表層直下で、ラインをしっかりなじませてi字引きやダート、速引きなど多彩なアクションで食わせず。そのほか、マイラーミノーと同様にワカサギのレンジに合わせて、ダウンショットやキャロで使用することも。キャロではズル引き、もしくはトゥイッチで使うことが多いですね



寺沢庸二

神奈川県
相模湖

Pro Staff's

O.S.Pプロスタッフがおすすめる、この時期に外せないルアー

RECOMMEND

そのフィールドに精通するO.S.Pプロスタッフが、シズナルパターンをもとに必携のルアーをご紹介します。

これさえ持っていれば、確実にバスは釣れる!!

シャローからミドルのベイトか
ワカサギを追っている個体に注目

10月ともなるといよいよ秋本番。これまで非常に高かった水温も少しずつ低下。場所によってはターンオーバーが起き、日によっては釣果が荒れるシーズンでもあるのです。しかしバスは固まってくる傾向にありますので、居場所さえ見つけてしまえばこっちのもの。素早く広くエリアをサーチし、その日

のハニースポットと釣り方を捉えることが好釣果を出すためのキーと言えるでしょう。

パターンは大きく分けてシャローとワカサギの2つ。シャローからミドルでエビやオイカワを食っている個体が、ワカサギについている個体を追うのか。この2パターンに大きく分類されます。

KEEP IT ON THE DOWN LOW

これは、ここだけの 秘密

並木敏成が語るあのルアーの真実

ON THE DOWN LOW

Theme

これからの季節に欠かせないディープクランク

このパンフレットを手にした、あなただけが知っているあのルアーの真実と、本当の使い方。

決して投げて巻くだけでは収まらない ときにテクニカルな使い方も要求される

ディープクランクと聞くと、その多くは「ボートの釣り限定のルアー」とイメージされる方も多いだろう。日本でもアメリカでも、沖から線や面で釣るときに使われ、基本的には深いところで出番となる。それはボートポジションとルアーの着水点の両方を指し、とにかく投げて巻いてくる。そしてそのコース状にある岩やハンブ、ときに水深でいうと3~5mぐらいの中層やボトムを小突きながら引いてくる。そんなイメージが強いのではないだろうか。

それは決して間違いではないのだが、ディープクランクが用いられるのはそれだけではない。バンクの際から急角度で落ち込むその角度に沿って引くこともあれば、レイダウンや消波ブロックが水中へと連なる角度に沿って引いてくることもある。もしくは水深1~2mの護岸際に立って、ショートキャストでバンクと並行に引いてくるおかつぱりスタイルも存在する。



ブリッツマックスDR 全長:61mm・自重:18g・フックサイズ:#4(ヘビーワイヤー)
ブリッツEX-DR 全長:53mm・自重:12g・フックサイズ#6
タイニーブリッツDR 全長:45mm・自重:6.7g・フックサイズ:#8

これらは先のイメージと違って自分の立ち位置やボートポジション、さらには着水点も浅い場合がある。つまりディープクランクは、マルチに使えるアイテムであることをまずは知ってもらいたい。

そしてこのようなマルチさを持つルアーだからこそ、自分がブリッツEX-DRやブリッツマックスDRに求めた要素も多い。

例えば泳ぎ出しのよさ。着水地点から即座に泳ぎ出してくれることで、急角バンクや消波ブロック、レイダウンなどにサスペンドするバスをターゲットに据えることができる。決して手つかずの沖のバスだけを相手にしているわけではないので、ボディはあくまでも小ぶり。にもかかわらず固定重心にしたことで急角潜行を実現している(重心移動を採用すると、その球がボディ前方にきてから泳ぎ出す)。

次にボトムノックアクション。ディープクランクではときに、ボトムを小突きながらバイトを誘発することが要求される。このとき、ボトムにタッチしたショックで横方向や斜めに大きく跳ねあがり、姿勢を崩したまま泳いでしまえば、バイトチャンスをみすみす逃すことになってしまう。だがEX-DRやマックスDRは一瞬、体勢を崩すもののすぐに立て直し、同一の距離内で何度も繰り返し、ボトムを小突かせることができる。このときの接触音や巻き上げる砂煙でバイトを促すだけでなく、こういったアクションだからこそ、根掛かりを回避する能力にも長ける。

仮にスタックしたとしても、ラインをたるませて浮かせればある程度の根掛かりをかかわることができ、なおかつ浮き上がりスピードも速すぎず遅すぎずに設定しているため、ここでの食わせも期待できる。これはタイニーブリッツDRについても同じことがいえる。

海外製のディープクランクなどで見られる固定重心で飛距離を出

そうとしているものはこの浮力に欠け、岩などにスタックしても浮かせてかわすことができないものが多い。そういったストレスを感じさせないこともまた、EX-DRやマックスDRの特筆すべきメリットである。

とにかく、自分が求めたディープクランクには隙がない。ロングキャスト性能はもちろん、ショートレンジで狙ったところに的確にキャストを決めるコントロール性能も兼ね備えており、何かと出番が多いのが正直なところ。まずはボート、おかつぱりを問わずに使ってみてほしい。

ややタイトでスーパーハイピッチな ウォブロールアクションが秀逸

ディープクランクは中層のただ巻きでも、ボトムノックにおいてもバイト率が差が出るカテゴリーだ。そこでO.S.Pのディープクランクでは、ボディを左右に振るウォブリング幅をワイドすぎずややタイトめでありながらも、スーパーハイピッチなウォブロールアクションに設定している。このアクションは同じレンジを泳ぐ他のクランクと比べた場合、釣り勝てる確率が非常に高く、実際、ユーザーのみなさんからもそういった声をよく耳にしている。

もちろん、ドラッキングでもこれらルアーをよく使っている。特にワカサギレイクで沖のフラットを釣る際に多用するのだが、一般的なクランクベイトの大きさよりも小型ボディのほうがベイトフィッシュのサイズにマッチし、長い距離を引いて使っても非常に扱いやすい。事実、バイト率も高いので、これまたお試しいただきたい使い方である。

次に最大潜行深度とラインの関係について。EX-DRはフロロの8ポンドで4.0m、マックスDRではフロロ10ポンドで4.2mまで潜行させることができる。加えて、ニーリングで使用すれば+50cmは潜行深度をアップさせることができることも覚えておいてもらいたい。タイニーブリッツDRについてはナイロンの10ポンドで3.4mを記録する。

またフロロとナイロンについてだが、潜らせたいならフロロ。ショートディスタンスでマシンガンキャスト的に打っていくならナイロンというのが自分の基準。ときに細めのPEラインでドラッキングという使い方もするのだが、詳しくは後述するのでそちらを参考にしてもらいたい。

ちなみにロッドについてだが、低弾性カーボンマテリアルのディープクランク専用のモデルであればスティーズ・スカイホーク(731MRB-LM)。もっとパワーが必要であればスカイパイレーツ(721MHFB-LM)をチョイス。去年のパサーオールスタークラシックでキッカーフィッシュを獲ったのはなんとMLクラスのスティーズ・ブリッツ(651MLRB-LM)だった。まさかスタート前にはブリッツマックスDRが出番になるとは想定しておらず、ラウダー(ポッパー)やタイニーブリッツDRで使用していたこのロッドで対応したのだが、なんら問題なく使うことができた。

ちなみにブリッツマックスDRには中大型サイズでキビキビ泳ぐに



もかかわらず、ハニカムボディ構造などにより引き抵抗が軽く楽に引けるというメリットを追記しておこう。

最大潜行深度まで潜らせるだけが ディープクランキングではない

さて、ディープクランクは文字通り、深いところまで到達させることができるクランクベイトのことを指すのだが、決してそれだけではないことをご存知だろうか。冒頭でも少しお話したが、あえて浅い側にキャストすることや、水深2mを釣る際に4mダイバーのディープクランクを登板させることが実は多い。

例えば水深2mを釣りたいのであれば、ブリッツやブリッツMRがレンジ的にはマッチする。でもそれは、最大距離までロングキャストして引いてきたときの場合。しかもその深度まで到達させるための助走距離が必要で、実際は30m投げたとしても、スイートスポットとなる層を引けるのはほんのわずか。もしそれが5mしか引けないのであれば、残りの25mは距離も時間も無駄にしてしまう。

しかしディープクランクであれば、ショートキャストで容易に2mまで潜らせることができるため、それらの無駄をすべて解消。10~15mのキャストでルアーを通したいスイートスポットをテンポよく打っていったほうがおかつぱり、ボートを問わずはるかに釣れる。それだけでなく、もしスタックした場合やトレースコースを調整したい場合でも、距離が近い分、ラインに角度をつけやすいというメリットも生まれる。30m先と10m先では、同じ高さ分、ロッドを掲げたとしてもそこでできるラインの角度が大きくことなることは言うまでもないだろう。

またレイダウンや消波ブロックなど、バンクから出ているカバーでは助走距離をとれない場合が多い。そんな中でも助走を必要とせずに狙ったレンジにルアーを素早く届けられるため、ディープクランクが出番となるのだ。バスに自分の存在を悟られない限り、ショートキャストで刻んでいくほうが断然、釣れる。この理屈がわかれば、ディープクランクの楽しさはさらに広がる!

またレイダウンや消波ブロックなど、バンクから出ているカバーでは助走距離をとれない場合が多い。そんな中でも助走を必要とせずに狙ったレンジにルアーを素早く届けられるため、ディープクランクが出番となるのだ。バスに自分の存在を悟られない限り、ショートキャストで刻んでいくほうが断然、釣れる。この理屈がわかれば、ディープクランクの楽しさはさらに広がる!



Photo by bassmaster.com
昨年のBasser Allstar Classic(ブリッツマックスDR)や今年、B.A.S.S.ノーザンオープン第3戦で7位(ブリッツEX-DR)に輝いたその裏には、ディープクランクの存在があった

もっと潜らせたいときはドラッキング H-1チャンピオンのオリキンはこう使う

最後に、ドラッキングについてご紹介しよう。先述したとおりワカサギレイクの沖のフラットなどで使うメソッドなのだが、そのスペシャリストのオリキンはこのように使っているようだ。「キャストでは狙いのレンジまで届かない。そんなときにドラッキングでアプローチします。いわばキャストの延長線上、という位置づけですね。あくまでも狙いはレンジに合わせることで。ちなみにタイニーブリッツDRで最大6m、EX-DRでは8.5m、マックスDRなら11mまで届かせることが可能です。その際のラインですが、タイニーブリッツDRはPEの0.6号にリ



ダーはフロロの8ポンド、EX-DRおよびマックスDRはPEの0.8号にフロロの10ポンド。いずれもPEパフォーマンスとブレイブZフィネスを使っています」by折金一樹
これらテクニックを駆使し、昨年のH-1グランプリでは年間優勝を奪取したオリキン。今や多くのフィールドで一般のアングラーにも取り入れられている超メジャーメソッドになりつつある。

秋から冬にかけて、ディープクランクが大活躍するシーズンが到来。クリアなりザーバーではミドルディープレンジに、マッディレイクや河川では消波ブロックなど、隙間があるハードロック系にバスが集まってくる。全体的にバスもベイトもレンジが深くなるシーズンで、かつバスは横の動きやリアクションバイトを生む素早い動きへの反応が非常によくなる季節でもある。雨や風が強いときはスピナーベイトに分がある状況でも、晴れた日はクランクじゃないと食わないというシーンも少なくない。決して速巻きだけに頼らず、ときには水中の枝や障害物のひとつひとつに当てて浮かせて、そう、まるで冬にシャッドを使うようにほぐしながら丁寧に攻めたほうが圧倒的に食うこともある。今回の記事を参考にあらゆるシーンでディープクランクを投げ倒してみしてほしい。



釣りビジョンの七色野水池でのロケでは、タイニーブリッツDRでモンスターの捕獲に成功!!

Field Guide

隣接する相模湖と並んで人気のリザーバー。首都圏からのアクセスがよく、週末ともなれば多くのアングラーで賑わっている。トーナメントも規模の大小を問わず開催されており、言うまでもなくプレッシャーは非常に高い。とはいえ、的確な攻めを展開すれば確実にバスを手にできる。

案内人はこの人

金井俊介

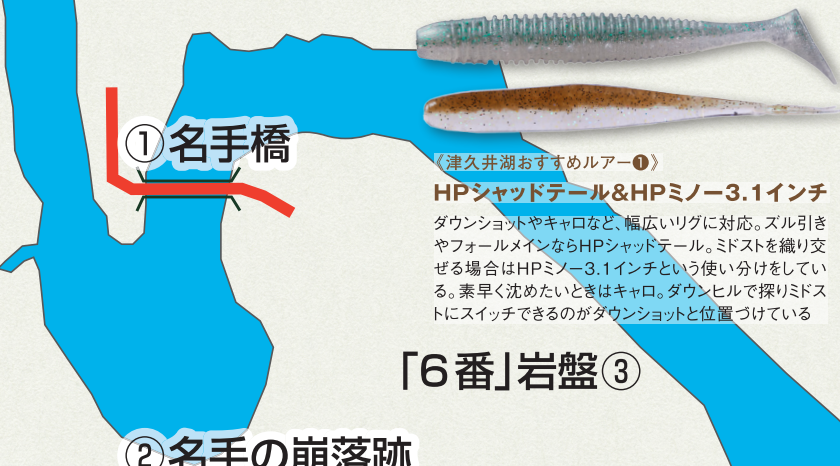
津久井湖のボート店、津久井観光でスタッフを務めながらガイドサービスも行っている。ライトリグからリアクション系の釣りまで幅広くこなす。この腕前はチャプター戦をはじめとしたトーナメントで遺憾なく発揮。バスはもちろん、冬場はワカサギも対象にした金井俊介のガイドはこちらをチェック→<http://tsukikankou.com/tkf-guide>



①名手橋

奥には崩落跡、橋の右側(上流に向かって)には馬の背からのハンブあり、さらには岩盤もありと、あらゆる条件が揃っており、バスのストックも多い。馬の背からハンブにかけてはベイトフィッシュも入ってくるので、その深め、水深にして7~8mをヘビキャロやスピナーベイトのスローロールなどで狙ってみよう

沼本ワンド・道志川方面



【津久井湖おすすめルアー①】
HPシャッドテール&HPミノー3.1インチ
ダウンショットやキャロなど、幅広いリグに対応。スル引きやフォールメインならHPシャッドテール。ミドストを織り交ぜる場合はHPミノー3.1インチという使い分けをしている。素早く沈めたいときはキャロ。ダウンヒルで探りミドストにスイッチできるのがダウンショットと位置づけている



【津久井湖おすすめルアー②】

ブリッツMAX DR&ブリッツEX-DR

水位が上がるまでの期間という限定的ではあるが(冬水位になるとバスがいるレンジまで届かないため)、それまでは岩盤にタイトに当てながら引くことで反応を得られる。10月初旬のクランキングは外せないタクティクスのひとつ



⑦三井大橋橋脚

超メジャー場所。バスがいれば釣れるのかというと、そう簡単ではないのが実際のところ。比較的デカイ個体の実績も高いため、通りがかりに空いていけば必ず狙いたい。沖側の橋脚は水深にして25mほどあるが、その10mぐらいまではチェックするとい。ルアーのジャンルを問わず、あらゆる攻めが効くスポット



⑨水中島

今回ご紹介する、最下流エリアがここ。目立ってモノが沈んでいるわけではないが、ベイトフィッシュの回避ルートになっている。魚探でその姿が確認できればダウンショットやメタルパイプ(オーバーライド)などでサーチカルに攻めよう。冬水位になっても目印となるブイがあるので見失うことはないだろう



⑧中村沖の台地

神社跡と同じく、沖までフラットな地形が続いているエリア。その両サイドはぐんと落ちて深くっており、さらに落ちていくところどころにスタンプがある(ロケ中も、このスタンプに巻かれてしまった...)。ここもダウンショットやヘビキャロなどスナッグレス性に長けるリグで、根掛かりをかわしながら攻めよう



⑩「4番」岬

津久井観光対岸の岬。ここを境に下流側はなだらかなフラット。上流側は絶壁のような地形になっている。フラット側はベイトフィッシュの回避待ち。上流側はスタンプがあるので、そこを重点的にチェックしよう。今シーズン、50cmアップの報告もいくつか上がっているビッグバスの実績場。一発勝負をするならここ!

とにかくベイトフィッシュが釣果のカギ 深ければ12mほどのディープも視野に

水温が20℃を下回りはじめると、いよいよ秋本番。バスは冬に向けてエサを果敢に捕食するため、10月の津久井湖を攻略するにはまず、ベイトフィッシュの動きを掌握することが重要といえる。そのメインになるのはワカサギやバス。特に大型のバスはバスを捕食していることが多く、ときには15~20cmほどの個体を食べていることもあるという(ワカサギは5~10cmほど)。これらエサを追って深場に落ちることがあれば、ベイトさえいけばバスはシャローに差していることも。重ねての解説になるが、まずはベイトフィッシュがどこにいるのかを突き詰めることから始めよう。「ベイトフィッシュは地形の変化が多いところに溜まりやすい。あとは風が抜ける場所。カレントもあったほうがいいですね。今回はそういった条件の場所をメインに紹介していますので、ぜひ参考にしてください」

ベイトフィッシュがどこにいるのかを見極めることが大事!!



⑪観光前

バンク側はフラットで、そこから急に5~6m、さらに22~23mまで一気に落ちていくブレイクになっている。沈みモノは少ない。ベイトフィッシュがブレイク沿いにいるのか、それとも浅い側の上になっているのかによって攻め方を変えよう。シャローはもちろん根橋まわりも有望。帰着間際の悪あがきに最適なエリア!?

食い渋るときはリアクションで強制的に食わせる

ベイトフィッシュがいるのに食わない。そんなときは、オーバーライドによるリアクションの釣りが有効になる。手返しのよさもライトリグにはないメリットだ。10mまでは1/4オンスが目安。3/8オンスにすることで同じ水深でもよりリアクション効果を上げられる。



キャロではHPシャッドテールをメインに、状況に応じてドライブシャッド3.5インチおよび4.5インチを使うことも。写真は金井おすすめのグリーンサンダー/グリーンフレークのHPシャッドテールでキャッチした一匹

おすすめはグリーンサンダー/グリーンフレーク

金井がキャロで多用するHPシャッドテールだが、色についてはTW-169グリーンサンダー/グリーンフレークがイチオシだという。アユやワカサギが多いフィールドでは特に効果的、とのこと。津久井湖のみならず、アユ&ワカサギレイクでぜひ試してみてください。



②名手の崩落跡

コンクリートで覆われた部分が崩落跡。ここに生えていた木が水中に沈んでいるだけでなく、そのまわりのバンクにも崩れた木やスタンプが点在。有名スポットでプレッシャーが高く、水中に残されたラインなどが多いため、スナッグレス性の高いライトリグが王道。立ち木周辺はスピナーベイトやクランクも有効だ



③「6番」岩盤

川筋の真ん中にあるエアレーションからの流れが岩盤に当たるため、真冬を除いて通年、ベイトフィッシュが多いエリア。ここもアングラーの目に付く人気の場所でありプレッシャーが高いため、ライトリグが攻めの中心になる。ダウンショットやライトキャロ、ときにはノーシンカーを投入することもある



エアレーションの流れは両サイドの岩盤に当たるため、できれば両岸をチェックしておきたい



④大沢ワンド

10月ならまだワンドの奥でも釣れるが、ベイトフィッシュがここから出てきたとき、バスもそれについて下ってくる。したがって狙いはワンド入口からその沖にかけて。メインで狙う水深はベイトフィッシュのレンジにもよるが、7~8mぐらい。深くても10~12mぐらいまでをチェックするといいたろう



⑤神社跡

津久井観光から下流に向けてすぐの大きく張り出した岬状の地形。ブレイクを形成しており、スタンプが点在している。根掛かりに強いリグはもちろん、スピナーベイトやクランクベイトといったムービングベイトも有効だ。10月15日を境に冬水位になっていくので、水位が低い間に地形を覚えておくといいたろう



⑥「3番」岬

「6番」岩盤と同じく、エアレーションが近くにあり、その影響でベイトフィッシュが溜まりやすいエリア。岩盤から赤土への変わり目になっており、赤土側はフラット、岩盤側は急深な地形になっている。赤土サイドは沖まで張り出したフラットになっており、キャロ系で攻めるところが多い、とは金井の弁



風が吹いたタイミングなど、何かしら状況が変われば神社跡は必ずチェックしたい場所。今回のロケではHPシャッドテール3.1インチのキャロでアベレージサイズを連続キャッチした

★津久井観光

⑪観光前

⑤神社跡

⑦三井大橋橋脚

⑥「3番」岬

立ち入り禁止

立ち入り禁止



【津久井湖おすすめルアー③】

ハイピッチャーマックス

根掛かりに強いスピナーベイトも、津久井湖では欠かせないアイテム。1/2オンスを基準に、ボトムに当てながら引いてくるのであれば5/8オンスにスイッチ。ビッグバスの実績も高いため、忘れず持っていきたい